

報告期間		ユーザー様名		S I 名・指導者名			
2007年 3月 16日(金) から		C 社様		株式会社電算			
2007年 4月 18日(水) まで				有賀 隆夫			
製品の内容、製品種類数、製品の単価(最高・平均・最低など) プラスチック成型部品(自動車部品、精密機器)、製品: 800種類							
生産形態、工程の要素 <input checked="" type="checkbox"/> 組み立て <input type="checkbox"/> 機械加工 <input type="checkbox"/> 板金 <input type="checkbox"/> プレス <input type="checkbox"/> 溶接 <input type="checkbox"/> 塗装 <input type="checkbox"/> メッキ <input type="checkbox"/> 研磨 <input type="checkbox"/> 鋳物 <input type="checkbox"/> 鍛造 <input type="checkbox"/> 熱処理 <input type="checkbox"/> 実装、SMT <input type="checkbox"/> 溶解 <input type="checkbox"/> スリット <input type="checkbox"/> 切断 <input type="checkbox"/> 溶断 <input checked="" type="checkbox"/> 成型 <input type="checkbox"/> 圧延 <input type="checkbox"/> 凝固 <input type="checkbox"/> 接着 <input type="checkbox"/> 食品加工 <input type="checkbox"/> プラスチック加工 <input type="checkbox"/> 化学薬品 <input type="checkbox"/> 衣類(裁断・縫製・ホタ) <input type="checkbox"/> 皮、ゴム、紙加工 <input type="checkbox"/> 織、編 <input type="checkbox"/> 印刷(除マニュアル等)・手書き <input type="checkbox"/> 染色 <input type="checkbox"/> エッチング その他()							
指導種類		<input checked="" type="checkbox"/> 新規導入 <input type="checkbox"/> バージョンアップ <input type="checkbox"/> 再導入 <input type="checkbox"/> その他()					
今回指導回数		19回目～22回目					
TPiCSバージョン		3. 1					
オプション・DB		受注販売、Oracle10g					
アイテム件数	2000件	BOM	5000件	所要量計算	1回/1日	製番展開	回/月
実績インプット	件/日	伝票発行	1回/日	伝票発行	件/回	製番展開	件/回
出席者		O氏、Y氏					
今回の指導目的							
<p>前回報告以降、一部得意先製品について並行稼働を実施し、運用レベルの最終検証をしてきました。</p> <p>3月末で並行稼働運用を行ってきた製品について本稼働を開始し、並行して他製品も運用レベルの評価を行うこととしました。</p> <p>今回の指導のポイントは、得意先からの内示に対する先行手配の対応と確定受注による引当について導入検討当初からいくつかのパターンを検証してきましたが、今回一部本稼働にあたって運用方法を確定することになりました。</p>							
経過 (発言者と内容)							
<p>■得意先からの内示と確定受注について (運用の前提条件)</p> <p><製品構成> (*実際の工程を抽象化したもの)</p> <p style="text-align: center;">A(組立て製品; 外注) - B(成型部品; 外注) - Z(成型材料)</p> <ul style="list-style-type: none"> 得意先から月1回20日前後に、3ヶ月間の計画情報と週に1回の確定受注情報がくる。 おおよそ2ヶ月先の内示情報を元に材料の手配を行い、1ヶ月先の内示情報を元に成型部品の外注への発注を行う。約1週間前の確定受注で最終製品の組立て(外注へ委託)の手配を行う。 材料は発注ロットまとめ(袋単位)があり、成型部品も外注先の生産性も考慮して、月2回に分けてまとめて手配を行う。 製品の外注への注文は、得意先からの確定受注単位(=出荷単位)なので、まとめはない。 							

■TPiCS での実装案

案①受注インプットの”ステータス”（内示確定の状況）の機能を利用する

(1)2ヶ月先の製品の内示情報を元に、受注インプット画面で”内示”ステータスでインプットする。

その際、ひと月分の内示を2つに分けて月の前半と月の後半

(例として、6月1日；2000個、6月16日；3000個)でそれぞれまとめる。

(2)所要量計算を行い、材料の手配、成型部品の外注発注を行う。

(通所のリードタイムからすると、成型部品の手配は材料よりも2週間ほど後になる)

(3)確定受注が来たタイミングで、受注インプット画面にて、”内示消し込みを行う確定”で

インプットすると、既に登録してある内示を消し込みながらインプットが可能となる。

案②生産計画画面から成型部品を固定レベル”1”として、内示情報をインプットする

案③生産計画画面から製品に内示情報をインプットし、入力した範囲まで仮確定とする。

成型品まで伝票データが確定したタイミング（製品の確定受注が来る前）で仮確定した内示情報による生計を削除する

■各実装案における課題

①案 内示の消し込みの際に、(特に内示の注番を指定しない場合)、確定受注の数量が内示を上回った場合は、翌月の内示に自動的に消し込まれてしまう。

①案 確定受注が来るのが週単位で出荷計画日の約1週間前のため、上記を例にとると、

6月1日の内示が約1週間分の確定受注が消し込まれた状況で、

(例えば、6月1日；200個、6月2日；150個、6月4日；300個、6月5日；150個の計800個分)

次の確定受注が来る前に残りの1200個の内示は、そのまま6月1日付けでまとまった数量のまま製品の生計が確定してしまい注文が外注に出てしまう。

②案 内示情報を元に成型部品の計画をインプットする際に、月に2つ(あるいは2つ以上)

の計画にまとめて登録する場合、必要数量、発注ロットまるめなど人手で予め計算してから登録することになり、製品の構成部品の種類が多い場合はかなり工数が増え、ミスも起こりやすい。

③案 前述の②案の問題は所要量計算が処理するので解消されるメリットがある。

結 論

【現時点までの評価】

上記の3つのパターンをこれまでの並行稼働の中で評価した結果、現在は、上記実装案③で運用しています。成型品や材料手配の確定タイミングと製品の確定受注の来るタイミングが運用上明確なので、製品の仮確定した生計を削除するタイミングも得意先によりルールとして明確にできるので3つの案の中では一番実運用にマッチしていたようです。

今後本稼動する得意先からの内示運用パターンによっては、他の案も適用する可能性もあります。

以上

検討事項・要回答事項・要継続審議事項

事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
事項		担当部署		期限	
次回開催日（予定）	次回開催場所（予定）	議事録作成日		議事録作成者	
		2007年5月30日(水)		有賀	

Format1.1